図書館長のおもちゃ箱

1912年の祇園祭

図書館長
樋口 穣
教授・日本文化史

写真１　京都市榮電車四條烏丸交叉點進行之光景

京都四条通りのアーケードに祇園囃子が流れるころになると、ああ、いよいよ盆地特有の蒸し暑さも本番だなぁ、と思うのは私だけでしょうか。祇園祭と言えば、最近、山鉾巡行の際のプレミアム観覧席の運用を巡る話題がニュースにもなりましたね。祇園祭は正式には祇園御霊会といい、疫病が流行らないように祈り、また、犠牲となった人々の鎮魂の祭礼として始まりました。ですから、高額な席料を取り、酒食を提供しての見物は、本来のあり方ではない、という八坂神社側の主張には尤もな面はあります。一方、山鉾町の氏子の人たちにとっては、暑い中、７月いっぱい、町を挙げて行う重要な祭事です。とはいえ、宵山から山鉾巡行までの期間には、亀岡市や奈良市の人口に匹敵する観光客が押し寄せるのですから、今や観光行事でもあるという現実も否定できません。

私が幼稚園児の頃は今のように身動きできないほどの人が集まっていた記憶がなかったのですが、古い写真絵葉書をみてみると、どうやら私の記憶違いだったようです。当時私は京都市の北区に住んでいましたが、親の知人に連れられて、そのまた知人が住む山鉾町の町家、通りに面した中二階から、目の前を通り行く鉾を見た事があります。当時はちまきを鉾の上から撒いていた頃ですが、知人の知人の知人の乗る（ややこしい）鉾が通るとき、囃し台の高さが中二階と近く、ちまきをホイっと放り込んでくれたものでした。

さて、今回は四条通烏丸付近が道路拡幅された大正初年頃の様子を、写真絵葉書をとおして観てみることにしましょう。

写真１の絵葉書には、明治45年６月15日の日付を持つ三大事業竣功紀念の記念スタンプが捺されています。四条通りが拡幅され、市電路線が敷設された直後を記念して発行された絵葉書です。交差点の真ん中には架線柱が立ち、電車用信号を切り替える役の制服姿の人物が二名（一人は座って休憩中？）が見えます。立派な大屋根を構える竣工間近の建物は鴻池銀行四条支店です。写真は西向きに撮影されたものですが、まだ自動車が１台も見えない、なんとも長閑な夏の雰囲気を感じます。西から進行してくる車輌は、竣工を祝う花飾りを纏った、いわゆる花電車です。市電四条線の西洞院－四條小橋間の開通は６月11日のことでした。祇園祭の始まる半月前の情景です。

写真２は、四条通りこの区間の市電開通から半月ほどあとの祇園会の様子を写した絵葉書です。四条通りを西向きに撮影したものですが、最初は具体的な撮影ポイントが判りませんでした。その後、見えているのが函谷鉾であるならば、手前の交差点は四条烏丸であり、右端のおおきな黒壁は鴻池銀行であると結論付けました。祇園御霊会としては、四条通り拡幅、市電開通後最初のものとなる、記念すべき写真です。おそらく、長刀鉾の上から撮影されたものと推測されます。市電の車輌も真新しい感じに見えます。山鉾が巡行するルートの市電架線は、邪魔にならないよう道路中央に腕木を持った架線柱を立てて対応していました。道路を跨いで架かる電線は、巡行日前に一時的な取り外しの工事も行われました。それにしても京町家の屋根を凌いで聳える鉾の姿はビルの谷底にある現在の姿とは全く違う印象を受けますね。天空を目指す尖塔のような凛々しさがあります。船鉾なども、甍の波と雲の波

写真２　京都祇園會四条通新道路　函谷鉾引初の光景

とを掻き分けて進む姿に見えて、勇壮さがあったことでしょう。

現在の京都市は、狭い道路幅に対して建物の高さがアンバランスな印象を受けます。

写真３は、この連載の第３回目にご紹介した大丸百貨店発行の絵葉書セットの一葉です。私の幼少時の記憶が誤りであることを証明する絵葉書です。もの凄い混雑です。傘をさしている人が多いですが、雨が降っていたのではなく、意地悪い夏の日差しを避ける日傘として使われたのです。慌てていたのか、逆さまに捺されている記念スタンプの文字は「山紫水明遊覧紀念」と読み取れます。サラセン様式鉄骨木造３階建て店舗の３階南面バルコニーから東斜め下方向に、２階バルコニーを見おろす角度で撮影されたものです。第３回で述べたように、新店舗の竣工は大正元年10月です。一方、この一葉を含む新店舗を広告する絵葉書セットは、竣工時期に遠くない頃に配布されないといけません。そうなると写真の光景を大正２年の祇園祭とするには時期が遅すぎます。もしかすると、グランド・オープン目前のプレ・オープン・イベントとして上得意客を招待した光景かも知れません。そう思えば、バルコニーにひしめく客の頭上に準備怠りなく日除けテントが設えてあるのも頷けます。まさに、プレミアム観覧席です。酒飯の提供があったかどうかは判りませんが。まあ、観ているだけでも汗が噴き出してきそうな光景ですね。

写真３　祇園祭四條通　Gion Festival-Shijo Street

明治天皇の崩御が明治45年７月30日。同日以降は大正元年となりましたから、明治という時代は祇園御霊会の終了とともに幕をおろした事になります。

このような低層店舗 / 住宅が平たく拡がる京都では、揺れながら動いて行く鉾頭を、遠くからも望見できたことでしょう。

［本学図書館所蔵の参考図書］

白幡洋三郎 [ほか] 編『京都百年パノラマ館』淡交社 , 1992.

生田誠監修；企画・編集 便利堂『明治の京都てのひら逍遙』便利堂 , 2013.